

事業事前評価表

平成 22 年 11 月 10 日

国際協力機構アフリカ部中西部アフリカ第二課

1. 案件名 (国名)

国名：コンゴ民主共和国

案件名：キンシャサ保健人材センター整備計画

Le projet d'aménagement de l'institut d'enseignement médical de Kinshasa

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの現状と課題

コンゴ民主共和国(以下コンゴ(民))では、紛争の影響により保健システムが機能しておらず、妊産婦死亡率 990 (対出生 10 万)、5 歳未満の死亡率 205 (対出生千) 等、世界的に見ても最も劣悪な状況にある。この要因の一つに深刻な保健人材の不足がある。保健人材の対人口比率は、21,600 人当たり 1 医師、2,590 人当たり 1 看護師、82,935 人当たり 1 薬剤師、124,400 人当たり 1 衛生技師と、いずれも WHO の基準 (5,000-10,000 人当たり 1 医師、300 人当たり 1 看護師、5,000 人当たり 1 衛生技師) から大きく乖離しているのが現状である。

(2) 当該国における保健セクターの開発政策における本事業の位置づけ

保健分野はカビラ大統領が就任演説で掲げた重点 5 分野の 1 つであり、貧困削減戦略文書 (PRSP) の優先開発課題「社会サービスへのアクセス改善」の中に含まれている。本案件の対象である保健人材センターは、中学校卒業後 4 年の教育を受けた中級看護師、準薬剤師、準衛生技師、準検査技師などの中級保健人材養成のパイロット校として、人材養成マニュアルやサービスモデルを作成し、全国の中級保健人材養成学校に普及する役割を担っていた。しかし、紛争中に略奪に見舞われた後、軍に占拠され施設が廃墟と化したため、現在はキンシャサ総合病院に間借りして細々と人材養成している状況である。実習用の教材は皆無であり、学校に最低限必要な机や椅子も老朽化している。また、生徒数に比して教室数も不足しており、廊下で授業を行なうケースも多く、教員の執務環境も未整備である。このような劣悪な環境において、教育の質を確保することは困難であり、同校の環境整備は急務である。

(3) 保健セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

我が国は、コンゴ(民)の民主化プロセスの進展を背景に、2007 年 2 月の経協政策協議において対コンゴ(民) ODA の二国間の本格的再開を決定し、「平和の定着」、「経済開発」、「社会サービスへのアクセス改善」を 3 つの重点分野としてコンゴ(民)政府と合意した。保健分野はこの内「社会サービスへのアクセス改善」の中に位置づけられる。また、本件は、ミレニアム開発目標の「妊産婦の健康改善」、「乳幼児死亡率の低減」および、TICAD IV 横浜行動計画の「1000 箇所の医療施設の改善」、「10 万人の保健人材の研修」に資する案件であり、我が国の方針に合致する。

実績としては、2008 年度より現在まで、保健アドバイザー、保健人材育成技術及び看護教育の専門家派遣、保健省トップマネジメントを招聘した国別研修、5S-TQM (きれいな病院プログラム) 研修の実施などを通じ「保健医療サービスへのアクセス改善プログラム」を展開しつつある。また、同プログラムの構成案件として、技術協力プロジェクト「保健

人材開発支援プロジェクト」及び無償資金協力事業「キンシャサ大学病院機材整備計画」に向けた協力準備調査も実施中である。本案件完了後は特に「保健人材開発支援プロジェクト」と連携していくこととなる。

(4) 他の援助機関の対応

コンゴ（民）保健医療セクターにおいては、援助機関調整メカニズムが良好に機能しており、国家保健開発戦略の遂行に重要な役割を果たしている。保健分野支援パートナー会議は、国連主導でなく、ベルギーやカナダなどによる二国間協力が中心であり、わが国も参加している。

3．事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

コンゴ（民）において、保健人材センターキンシャサ校を国立モデル校として再整備することにより、質の高い中級保健人材の養成、中級保健人材の教育モデルの開発、全国中級保健人材センターの教員研修、中級保健人材の継続教育の実施を図る。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

キンシャサ市内

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機材等の内容

【施設】教室、実習室、教員室、宿泊施設等

【機材】実習用機材、教材作成用機材、学校運営用機材等

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

特になし

(4) 総事業費/概算協力額

18.65 億円（概算協力額（日本側）：18.52 億円（内、詳細設計 0.85 億円）（コンゴ民側）0.13 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2010 年 10 月～2012 年 10 月を予定（計 25 ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

実施機関：保健省

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

カテゴリ分類：「C」

影響と緩和・軽減策：特筆すべき負の影響はなし

2) 貧困削減促進：特に関連なし

3) ジェンダー：特に関連なし

(8) 他援助機関等との連携・役割分担

特になし

(9) その他特記事項

特になし

4．外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

特になし。

(2)プロジェクト全体計画達成のための外部条件

コンゴ(民)における保健医療政策が大きく変更されない。

コンゴ(民)における治安情勢が悪化しない。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

無償資金協力「セネガル共和国国立保健医療・社会開発学校整備計画」事後評価では、医療分野(特に臨床検査分野)においては、技術革新により数年で機材が時代遅れになってしまう場合がある、機材の選定に当たってはできるだけ長期間使用できる標準的な機材を調達する必要がある、機材使用予定者の使用技術能力をよく見極めた機材選定を行う必要がある、などの教訓が導かれており、本案件においても十分留意した設計内容とした。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1)妥当性

本事業は、2.事業の背景と必要性で記述の通り、コンゴ(民)のニーズならびに開発政策と十分に合致している。内戦後、国内に中級保健人材センターの中核をなすモデル校が存在していないため、かつてモデル校として機能していた今回の対象サイトを整備し、技術協力による側面サポートを行なうことにより、「コ」国の中級保健人材のモデル校が確立され、質の高い保健人材が育成されることは「コ」国にとって喫緊の課題である。

(2)有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値(2009年)	目標値(2015年)【事業完成3年後】
中級助産師育成数(人/年)	0	30
質の高い教育を受ける中級保健人材数(注)(人/年)	0	90
中級保健人材に対する継続教育研修収容数(人)	0	200
キンシャサ市の中心地以外の受入学生数(人)	0	120

(注)看護師、助産師、準薬剤師、臨床検査技師、衛生技師等を指す。

2) 定性的効果

全国中級人材センターのモデル校として機能し、全国の人材センターの教育レベルの向上に貢献し、質の高い保健人材が育成される。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2)1)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成3年後

以上